

## H&amp;H アメリカに学ぶ社会保障



理事長 島田 永和

アメリカという国は不思議な国である。財政赤字は膨大で、貿易赤字とともに「双子の赤字」を誇って(?)いるにもかかわらず、世界のリーダーを自負し、他の国を「ならず者国家」と非難し兵を派遣したりする。なぜ、これだけの赤字であるにもかかわらず、国家として成り立っているのだろうか。また、世界のリーダーの位置を保ち続けることができるのだろうか？

その秘密は「ドル」にあると言われている。「ドル」が世界で一番用いられ、基準となり、「基軸通貨」として認められているから、このすさまじい赤字の状況でも破綻することなく、ドル紙幣をどんどん印刷してもスーパーインフレを起こすことなく信用を保ち続けているのだという。

世界を制する国家、または制覇しようとあと一歩まで達した国家が歴史上いくつかある。ヨーロッパ、アジアに限られるとはいえず、蒙古やローマは一時期その支配を広大な領域に拡大し、統治した。そして、大航海時代、スペインとポルトガルがアジア、アフリカから南北のアメリカ大陸にまで勢力を伸ばした。それを引き継いだのは大英帝国で、その範囲は「日の沈むことはない」と形容された。こうした欧米列強の植民地の奪い合いが二度の世界大戦となり、戦後、米ソの冷戦時代を経て、ソ連の解体からアメリカの一国支配の構図が誕生した。しかし、覇権を勝ち取ったとしてもその体制が永久に継続することはないことはこれまでの歴史が鮮やかに証明している。アメリカとて例外ではない。リーマンショック以来のアメリカの弱体化を見て、覇権の奪還を期すのが連合体として立ち向かうヨーロッパ諸国であり、さらに新興の中国も虎視眈々とその機会をうかがい、軍事力の強化に余念がない。

日本を含むアジア諸国は、こうした列強の覇権争いの渦に巻き込まれ、多かれ少なかれ何らかの影響を受けてきた。長い人類の歴史上、この覇権を争う動きと宗教の違いが生む対立と抗争は絶えたことはない。覇権は、国と国がどちらが強いかを競う戦いの結果であり、つまりは国力の勝負である。国力は、つまるところ軍事力と経済力に集約され、結局は国と国との商取引と軍備の状況が勝負を決める要因となる。さらに要約すれば、軍備にどれほど予算をつぎ込めるかは、経済力と強い関連があり、分かりやすく表現すれば、儲けた国がその財力を軍備につぎ込み、力関係を表現する場を外交で作り出し、良い結果を獲得すれば、次の覇権国家として名乗りを上げることになるのである。

日本の政治にとって、昨年の衆議院選挙から争点として上げられているTPPを考える時、貿易を通して、どのように儲けて国力を上げるつまり国益に資することになるのか、また、どの国を助け、どの国に対抗して自国の立場を守ろうとすれば良いのか、複数の要因を分析し有利な条件を引き出す交渉が求められることになる。

医療関係者としては、TPP参加による日本の医療制度への影響を危惧する気持ちにはなるが、その立場よりも、これからの世代にとって日本がどのような国として存在できるのか、また、存在できるようにしていくのか、国そのもののあり方が問われる判断であると私は感じている。

アメリカの医療現場に触れる機会を得たり、また、アメリカの医療関係者が日本に来られた時に現状を聞いたりすると、彼らがこの業界の中で真剣に医療の質を保ちながらも、ムダを廃し、効率的な体制を構築することにエネルギーを傾けていることに驚かされる。アメリカという国が象徴する「自由」の代償として、金持ちは良い医療を受けることが可能だが、経済的に十分でないといひ扱いを受けるという印象がある。しかし、金持ちの顧客だけを相手にして、悠々と医療経営を行っているのはほんの一握りの特殊例であり、日本と同様に、高齢者・障害者や貧困者に対する公的保険による医療の提供については日本以上の厳しい管理の実態があることに感銘を受けるのである。医療経営者が現場のスタッフとともに、いかに費用対効果を意識し、しかも「質」を守ろうとしているかを知ると、日本の医療経営者が国全体の財政状況を忘れて、医療費の増額を主張しながら、診療報酬制度の中で利益を残す方法の議論に熱心であることに、違和感を覚える。国民皆保険下におけるヘルスケア事業は、基本的に税金や保険料でまかなわれる公共性の高いサービス提供方式である。そこでは、自分たちの提供するケアの費用対効果に関する強い責任が求められるという当たり前のことを、アメリカの医療現場の苦勞を見て痛感する。

つまり、一つの疾患に対する診断に至る検査の順番と種類を選択する姿勢、そして、治療方法を考える時にそこでかかる費用についての発想、さらには、急性期治療の後に必要となるリハビリ



リテーションケアや介護ケア、また在宅サービスなどの継続性と効率性への真剣な取り組み、これらの一つひとつは、いずれも良いケアをいかに安く仕上げようとするかの現れである。翻って、日本の医療・介護の現場を振り返ると、診療・介護報酬の改定のたびに、その変化にどう対応すると利益が上がるか、つまり請求額が高くなる方法は熱心に議論されても、いかに安くしかも質を保持するにはどうすれば良いかのテーマは話題になることはきわめて少ない。

国力を図る指標は、経済力と軍事力であると述べた。そして、軍備もお金次第だとすれば、国がその独自性を守るには「財力」を上げることが何より重要であると総括した。税金と保険料を使う医療・介護ケアは、ますます進展する高齢社会における重要な社会的な基盤となる。しかし、だからといって、この分野のみに重点的に予算を投下するわけにはいかない。限られた予算を最大限に生かす方法を模索しなければならないのだ。この事業を行うのが公的機関より、民間の事業者が主体となっている中で、ただ自分たちの利益を追求するだけではなく、国全体の財政状況に見合ったサービス提供の方式を検討し、採用していく

ことになる。それは、サッチャーが「イギリス病」にかかり元気のない自国民を叱咤し「政府に頼るな」と強調したように、これまでの甘えた環境からの脱皮を必要とする。恩恵が減少することを受け止めるのは容易ではなく、相応の覚悟が必要である。行政と事業者が力を合わせて、ヘルスケアのあり方の変化を推進し、同時に国民に啓発することで初めて成立するだろう。

貴重な財源を最大限にいかすため、本当に必要な人から優先順位を付けて使用するという公的なサービスの基本となる考え方を医療従事者・国民が共有しなければならない。H.25.4.22に開催された第10回社会保障制度改革国民会議では、これまでの議論が取りまとめられ、基本的な考え方の一つとして、「いつでも、好きなところで、お金の心配をせずに、求める医療を受けることができる医療」から、「必要なときに、適切な医療を、適切な場所で、最小の費用で受ける医療」への転換が掲げられている。今後ますます需要が増すこの分野のサービスのあり方について、少なくとも「これまで通り」を基本とする議論では限界があり、次の世代に対して、持続可能な体制を準備する大きな転換点に差し掛かっていることを痛感するこの頃である。

## インフォメーション

### ヴィゴラス教室のご案内

皆様のご利用を、  
お待ちしております。

## 【マンツーマン】トレーニング講座 「小学生のためのランニングフォーム教室」 ～50m走で一番になるために～

8歳～13歳は、「ゴールデンエイジ」と呼ばれ、あらゆる「動き」の習得が可能な年齢です。この教室では、さまざまなスポーツで基本となる「走る」について、より個別性を重視し、個々の体力・姿勢評価に基づいた指導によりランニングフォームづくりをマンツーマンにて実施致します。ぜひ、この機会にご参加ください!!

- 日 程 **まずは、ご希望の日時をお申し出下さい**
- 内 容 マンツーマン指導 [90分]  
①体力および姿勢評価 ②前項結果に基づいた個々のランニングフォーム指導
- 対 象 者 小学校3年生～6年生ぐらいまでの方 \*保護者の方同伴で参加ください
- 費 用 5,000円(税込)
- 予約方法 ①はびきのヴィゴラスにて直接お申し込み ②TELまたはFAXにてお申し込み
- 予約期間 5月1日(水)～9月30日(月)まで ※定員に達した時点で締めさせていただきます。

### より個別性を重視した集中トレーニングを実践!!

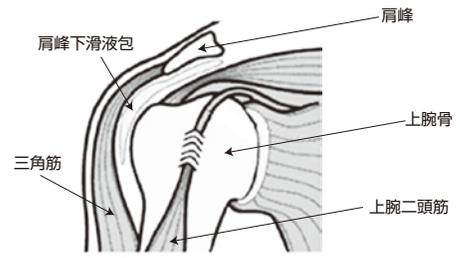
※お問合わせは島田病院 地下1階 TEL/FAX 072-953-1007  
はびきのヴィゴラスまで E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

# 肩峰下滑液包炎のリハビリテーション

けんぼうかかつえきほうえん

## 肩峰下滑液包炎とは

滑液包(かつえきほう)とは、全身の皮膚、筋肉、腱、靭帯などと骨がこすれる部分にあり、これらの組織の損傷を防いでいる小さな袋状のクッション組織のことです。この滑液包を直接打撲したり、誤った動作を繰り返すことなどで負担が蓄積すると滑液包炎となります。肩関節には肩峰下滑液包があり(図1)、この組織が炎症を起こすと、肩の引っかかり感(特に横からの挙上)や動作痛、ひどい場合には安静時にも痛みを伴い、症状が長引くと五十肩の原因にもなることがあります。



【図1】右肩前面

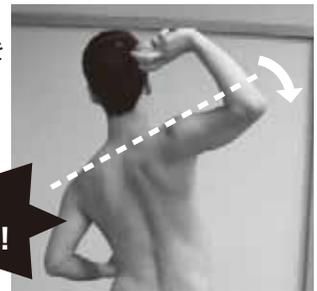
## 原因(例)

肩甲骨や体全体の動きが悪く、体を使わずに手や腕を偏って使うことなどが原因となります。

〔例1〕窓を拭く作業で、腕に偏った動作や無理な体勢が続いた場合



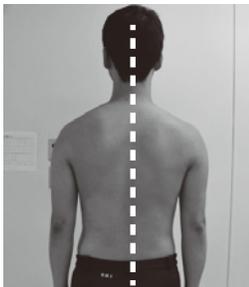
〔例2〕投球動作で肘が低く、いわゆる「手投げ」を繰り返した場合



誤った身体の使い方が、肩を痛める原因になります!

## チェック方法(例)

肩峰下滑液包炎の症状があるかチェックしてみましょう。腕を横からスムーズに上げることができるか確認してみてください(下図: 右肩の例)



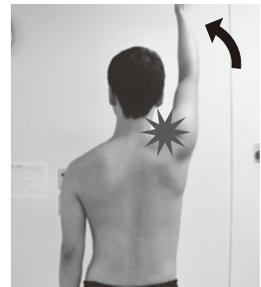
①まずは余計な力を抜いて、体が傾かないように姿勢を正して下さい。



②腕が水平まで挙がらない場合は、肩峰下滑液包炎の炎症が強いのか、他の疾患の可能性もあります。医療機関の受診をお勧めします。



③腕を水平以上に挙げた時に痛みがあれば、肩峰下滑液包炎の可能性もあります。以下の運動を試してみましょう。



④最大まで上げた時に痛みがあれば、今後肩を痛める可能性があります。予防のために以下の運動を続けましょう。

## 運動療法(例)

肩などに痛みが出ないかを確認しながら、毎日続けて実践してみてください。

### ◆胸張り(10回)



左右の肩甲骨をしっかりと中央に引き寄せて胸を張ります



少し猫背になり、肩甲骨を左右へしっかりと開きます

### ◆横向きで胸を開く運動(10回)※右肩の例



横向きに寝た姿勢で右手を頭の後ろに固定し、右肘と胸を大きく仰向けに開きます



### ◆骨盤の前後運動(10回)



下腹から骨盤を出す、引くを繰り返します

## はあとふるグループ 使命

私たちは、高質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

## はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを Warm Heart:心 Cool Head:知識 Beautiful Hands:技術 で支援します

## 島田病院 理念

人間愛にもとづく確かな知識と技術により、信頼でつながるチームで、安全に、心に届くサービスを提供します

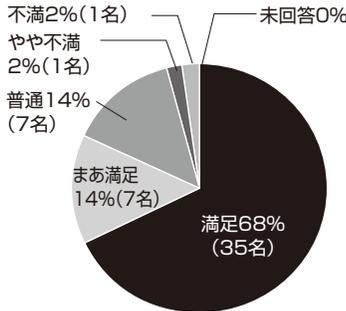


# 食事アンケート調査結果

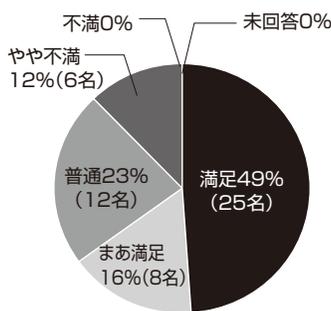
入院患者さまに対して少しでも満足いただける食事サービスを提供するために、食事アンケートをききとり方式で実施しました。今回は、平成25年1～2月に実施しました調査結果を発表します。

実施期間:平成25年1月29日～2月18日 調査対象:期間中の入院患者51名

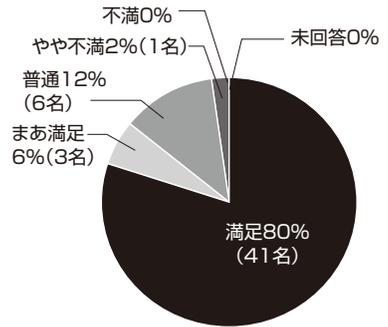
### 1. 食事全体の満足度



### 2. 味付けについて



### 3. 温かさについて



### 4. 嗜好

**好きなメニュー**

- 肉料理12名 ●魚料理13名(内刺身4名煮1名) ●麺類6名(内うどん2名)
- 寿司4名(内ちらし1名) ●カレーライス6名 ●揚げ物 ●赤だし
- あっさりとした和え物 ●南瓜のポタージュスープ ●高野豆腐 ●豆ごはん
- 酢の物 ●卵料理 ●ハヤシライス ●ハンバーグ ●ぎょうざ

**嫌いなメニュー**

- 魚料理5名(内刺身2名) ●納豆3名
- 鶏肉2名 ●乳製品2名 ●ハンバーグ
- とろろ汁 ●酢の物 ●めた和え
- 油っぽい物 ●豆ごはん

### 5. 手術前や手術後の食事に食べにくさや空腹感など、不安や不満を感じることはありませんでしたか?

痛みや意識朦朧として食べられなかった	14名
術後食の量がたりなかった	3名
術前の空腹感の訴え	3名
温かさや形態の考慮で食べやすかった等	7名
寝たままなので食べにくかった	1名

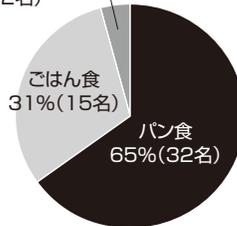
◆術後は、痛みや眠気があって食欲がない場合でも、ゼリーやジュースならば食べることができる方もおられます。ぜひご相談ください。

### 6. 自宅での朝食についてお聞かせください。

#### ●毎日朝食を食べますか?

毎日食べる…48名 毎日食べない…3名

パン食とごはん食交互  
4%(2名)



#### ●パンやごはんの他に何を食べますか?

牛乳	9名	卵料理	10名
コーヒー	21名	野菜(サラダ)	9名
ヨーグルト	6名	魚	2名
味噌汁	11名	納豆	1名
果物	9名	肉料理	2名

◆当院ではパン食とごはん食を2種用意しております。  
パン食…パン、サラダ等、果物、牛乳  
ごはん食…ごはん、味噌汁、煮物(和え物)、果物、牛乳  
少しでも家と同じように満足いただける朝食メニューを考えています。

### その他のご意見(一部抜粋)



●おいしいです。(6名) ●選択メニューが嬉しい。(3名) ●酢の物が特においしい。(2名) ●大変満足している。●外で御飯を食べているような気分になるくらいおいしい。 ●減塩食を食べているがどれを食べてもおいしい。家での参考になります。 ●魚は嫌いだが病院の魚がおいしくて全て食べている。食べられるようになった。 ●メニューに野菜が多く取り入れられているので退院してからも家に帰って真似がしたいと思う。 ●野菜嫌いであったがここの給食で美味しく食べられるようになった。工夫されているのが嬉しい。



●朝ごはんが足りない。(5名) ●全体的に薄味なのでもう少し濃くしてほしい。(2名) ●時には品数が少なく感じる時がある。 ●もう少しボリュームがあってもよい。(予算を多めにとって)

当院では生活習慣病予防の観点から「うす味」を心がけています。「うす味」でも美味しい、またご家庭に帰られた際の参考になるような食事作りにも努めています。そして入院患者さまの療養生活が少しでも快適に過ごすことができるよう食事量や形態など個々に合わせた対応できるように努めています。どうぞ何かございましたらお気軽にお声かけください。アンケートへのご協力、有り難うございました。

栄養管理課